

令和4年度第1回うらわ美術館協議会会議録

1 日 時 令和4年8月16日（水）午前10時00分から午前11時45分

2 場 所 さいたま市役所第二別館 第1会議室

3 出席者 大越委員（会長）、加藤(弘)委員（副会長）、小澤委員、西村委員、斎藤委員、三村委員
細田教育長兼館長、山浦生涯学習部長、酒井副館長、清水係長、山田係長、梶主任

4 次 第

開会

議事

- (1) 令和3年度事業報告及び評価について
- (2) 令和5年度事業計画（案）について
- (3) その他

閉会

5 議事内容

副館長 うらわ美術館協議会規則第3条の規定により会長に議事進行をお願いいたします。大越会長、よろしくをお願いいたします。

大越会長 それでは議事に入りたいと思いますが、出席者は6名、欠席者は4名ですから、今回会議は成立します。事務局にお尋ねしますが、傍聴希望者はおられますか。

事務局 おりません。

大越会長 傍聴希望者なしということで、次第にしたがって進行します。令和3年度事業報告及び評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局 《令和3年度事業報告》

大越会長 ただいま事務局より、昨年度の事業報告及び評価について説明がありましたが、コロナ禍にありながら、その前の年に比べると、若干復活の兆しも見られる

1年ではなかったかと思います。ご意見等はございますでしょうか。

小澤委員 ミュシャ展についてですが、1点だけ作品を選んで写真を撮ってもいいというのはどういった企画なのでしょう。

事務局 ミュシャ展については著作権の制限も無かったので展示室内での撮影を可としました。撮影できる作品を1点に限定したのは、自分のお気に入りを探していく積極的な鑑賞をしていただけたらと思い、その説明を丁寧に掲示し実施しました。結果として、1点を選ぶということがとても良かったというお声を市民の方や他の美術館の方からいただいております。

小澤委員 もう一つよろしいですか。一般利用貸館というものがありますが、この8件というのは申込が8件なのか、選考した結果8件なのでしょう。

事務局 申込自体が8件です。

小澤委員 埼玉県立近代美術館ですと例年50件ぐらいきて審査しているのですが、ここでもそういった審査はしているのでしょうか。

副館長 申込の際に趣旨に合っているかどうか確認させていただきまして、問題なければ借りていただくという流れになっております。

小澤委員 それは美術館が決めるのですか。

副館長 美術館側で受付の段階に審査します。

小澤委員 もう少し件数が増えると良いですね。

副館長 コロナ禍ということもありますけれども、普段でも大体10件ほどにはなります。

小澤委員 アクセスもいいですし、使い勝手も悪くないですが、それにしても少ない印象ですね。

副館長 さらに多くの方に使っていただけるよう周知に努めていきたいと思っております。

大越会長 貸している期間が一年中通してではなく短いのですよね。

副館長 概ね2月の後半から3月のみになります。展覧会を実施している期間は利用できません。

小澤委員 それでしたら、埼玉県立近代美術館とは事情が違いますね、わかりました。

大越会長 展示室の中を分割して貸しているのですか。

副館長 はい、D室はもともと別になっておりますが、広い展示室をABCと3分割して貸し出しておりますので、同一週に計4団体までご利用いただけます。

三村委員 ミュシャ展におきまして、今後のSNSの使用方法や使い分けについて考える機会になりましたとありますが、この使い分けというのはどのようなことですか。

事務局 展覧会や館の活動について、Twitter、YouTube、Facebook等をケースバイケースで状況に応じて慎重に考えながら使用していきたいと思っております。

三村委員 色々なメディアを選ぶだけではなくて、やるかやらないかも含めて、目的を考えて使い分けていくということですね。もう1点ですが、学校連携事業で、こどもニュースうらびいが学校に届き、これを見たと行ってみたいくなる作りでいいなと思うのですが、部数が数枚送られてきても活用しづらく、もっと多く送っていただきたいと思っております。

副館長 そちらは年に3回発行しておりまして、夏だけは、全児童生徒に配布しております。春と秋はクラス数分発行しており、その辺で使い分けていただけますとありがたいです。

大越会長 夏のものは、夏休みに入る前に全校児童生徒に配ってもらうということですね。これはニュースというより、ワークシートも兼ねているので面白いと思いました。

小澤委員 教育普及事業の多世代交流ワークショップについて、ファシリテーターはどういった人なのですか。

事務局 外部のアーティストに依頼しています。

小澤委員 これは何か軸があったりするのでしょうか。

事務局 毎回テーマは違うのですが、テーマに合った方に依頼をしております。

小澤委員 ワークショップは本と多世代で、年間だいたい3回実施なのですか。

事務局 毎年、本と多世代のワークショップを開催しております。本のワークショップは当館の収集方針が本をめぐるアートですので、毎年造本家である当館収蔵作家にお願いしております。多世代ワークショップは子どもから高齢の方まで一緒にできることということで、テーマと講師を毎回変えて実施しております。

小澤委員 この多世代ワークショップは1年に1回ではもったいないと思います。この前、小松の美術館で親子の落書きワークショップというものを行ったのですが、とても多くの方に参加いただきました。多世代交流というものはすごく可能性を感じますので、こういったワークショップはとても大事だと思います。

大越会長 これはコロナ禍で参加人数の制限を設けていたのですか。

事務局 いつもは館内の展示室Dで実施しているのですが、ここ2年は外部の広い場所を借り人数を制限したうえで、参加者同士の間隔を空けて実施しております。

大越会長 コロナ禍では、実施する側がとても神経を使いますね。少しずつでも中止せずに実施しているということについては頑張っているなと思いますが、回数を増やすことについては余力があればでしょうか、もう少しスタッフがいればと思いますね。

他の方はいかがでしょうか。

加藤副会長 ワークショップも含めてですけれども、特別支援学校の子どもたちですとか、障害のある子どもたち、それから大人の方も含めて、どのようなプログラムが提供されていますでしょうか。

事務局 今実施しているものとして、本のワークショップは中学生以上、多世代交流ワークショップは各回幅広い年齢層の方を対象としており、障害のある方もご参加いただけます。

加藤副会長 障害のある子どもでもこういったワークショップに参加できるということですね。

事務局 はい。過去にも多世代交流ワークショップにおいて車椅子の方が参加してくださり、他の参加者と同じように参加できるような形で実施しました。

副館長 また、展示室貸し出しとしてのものにはなりますが、特別支援学級の作品展を実施しております。

加藤副会長 先ほど貸し出しの話がありましたが、条件というのはどのようなものがあるのですか。

副館長 美術に関することが条件にはなりますが、今お伝えしました特別支援学級の作品展につきましては、教育的な利用として一般の貸出しとは分けて考えております。

大越会長 障害者の方への関わりについては、前回西村委員からもお話しいただきましたが、アドバイス等はございますでしょうか。

西村委員 障害といっても多様ですので、それぞれに対応していくのは難しいのですが、やはり何かそういったプログラムがあるといいと思います。うらわ美術館の場合は規模がそれほど大きくはないのと、人員的に大変だとは思いますが、すべての方に開かれているという、美術館としてそういうものを打ち出すということは大事だと思います。ですから、学芸員の方だけでなく、外部の方にも依頼して、年に一つでも基本になるような事柄に取り組みれるといいと思います。ただ、あまり広げてしまえば大変ですので、規模に応じて特色を持ってやられるのがいいと思います。

大越会長 東京都美術館では障害者の鑑賞に力を入れてらっしゃいますよね。

加藤副会長 そうですね、一番簡単に実行できるのが、休館日を障害のある方専用の日としてご覧いただくことです。そうすると、特別扱いしてどうかと思われるかもしれませんが、車椅子の方ですとか展示ケースに近づいて気兼ねなく観られたり、リラックスして観ていただいているのが印象的でした。通常通り開館するだけなので、そこまで難しくなくできると思います。もう一つは、子どもたちだけではなく高齢の方の、認知症であったりですとか、そういった方向けのプログラムも始まりつつありますので、そういった点でも、こちらの美術館では何

を特色とするか、何もかもはできませんので、そういった様々な角度から考えられる機会を持てるといいなと思います。ただ、すぐにできることではありませんので、焦る必要は無いと思います。

斎藤委員 観ている側からしても、やはり車椅子の方が遠慮なさってるという感じはします。多分、緊張しながら観ておられて、先ほど副会長がおっしゃったように、そういう方たちばかりでしたら、のびのびと観られると思います。

加藤副会長 あとはそこに、ボランティアで補助する方が会場内に散らばって、解説をするわけではなく、何かあればお手伝いできるような会場内で分かるように立っている、そういったさりげないサポートもあるというのが大きいだろうなと。そのあたりがなかなか身に着けていくのは難しいことだろうと思います。

大越会長 ありがとうございます。すぐ今日明日できることではありませんけれども、情報収集をしていただければと思います。

それでは、次の議題にいきます。令和5年度の事業計画案につきまして事務局からお願いします。

事務局 《令和5年度事業計画説明》

大越会長 ただいま事務局より、事業計画案とそれから改修工事案のことをお話いただきました。つまり来年度の予定では、さいたま市展の後、休館に入ることですね。それでは皆様、何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

小澤委員 令和6年の夏頃までの工事が終わって以降の予定はどうなりますか。

事務局 企画展の話は現在しております。

斎藤委員 いつも思うのですけれども、美術館というのは鑑賞部分で、そこに何を出すかとか、そういう工夫も大変ですけれど、それ以外のことも多岐に渡って、これだけのことをなされてるのだと思うと、本当にご苦労さまでございます。そして質問がありまして、グループ鑑賞受入随時とあるのですが、このグループ鑑賞というのは、希望があればできるのか、それとも何かグループに条件みたいなものがあるのでしょうか。

事務局 明確な規定というのはございません。たとえば、美術部の学生や美術を愛好しているグループですとか、人員の都合もあります可能な範囲でできるだけ

対応をしたいと考えております。

斎藤委員 これは通常の会期に、そのグループが来てご案内するということですか。

事務局 はい、ギャラリートークみたいなもので、通常のギャラリートークは会期中決められた時期にやっておりますが。導入部分ですとか、こんな見どころがありますよみたいなことを、お伝えできる範囲で、ケースバイケースでお伝えしています。

大越会長 普段だとどれくらいの希望があるのですか。

事務局 ひとつの展覧会に1団体あるかないかでしょうか。

斎藤委員 そうすると先ほどの関連ですが、例えばそのグループが車椅子の10人ぐらいの団体であっても大丈夫ですか。

事務局 今のところお断りする理由はなく、スペースの問題で通りにくくなってしまう場合は2回に分けてですとか時間をずらしてもらおうとかでご協力いただく等の工夫をしていきたいと思っております。

斎藤委員 先ほどのお話の中で、いきなり大きなことをせず、規模を限ってするという意味では、いわゆる弱者の方や、高齢者の方ですとか、自治会からであったりとか施設であったりですとか、あとは車椅子の方をサポートしているNPOの団体ですとかそういったグループも可能なのですよね。

事務局 何らかの工夫が必要なのと、準備がどこまでできるかになると思っております。

斎藤委員 私たちはそういうことがあるということも知らないのですが、もし知れば、これは良い取っかかりになり、一度行ってみたいと思う方はいらっしゃるのではないのでしょうか。

大越会長 ホームページ等でそういったグループ鑑賞を受け入れてますということは出していますか。

事務局 ひとつの事業として受け入れてますというようなことではなく、お話をいただいて随時相談というものになっています。

大越会長　　そうするとその希望の時間に、対応可能なスタッフがいればということでしょうか。

事務局　　はい。できるかどうかその都度考えながらとなりますが、夏の展覧会はイベントがいくつもありますので。

西村委員　　やはりその分野を専門に考えていただく人が1人いると便利です。そのことによって、なかなか人を雇うのは大変なので、先ほど出てましたように、ボランティア組織ですか、そういう人たちを組織して、上手くまわしていくっていうことですよね。だから自分たちで全てできるわけではないので、そういういろいろな手を使ってアピールしていただくことが必要だと思います。海外を見ても、美術館の姿勢としてそういうところに取り組むというアピールをすることがすごく大事で、あとは具体的にどういうことができるかということになります。特にアメリカですと、40年前からやっています。ロンドンでは、視覚障害者のための美術館案内の本があって、10項目ぐらい各美術館の簡潔な案内が載っており、それを見ればどうすればいいかがわかるわけです。こういうことやってますよというインフォメーションがあると、美術館に行ったことはないけども、私も行ってみたいことができるのかなと思える。ただ、障害を持っている方の全体数は少ないのでそんなに大勢の方は来ません、でも社会のあり方として、やはり非常に大事なことなので、その方向性を示されているというのが良いと思います。

加藤副会長　　空調の工事についてお伺いします。空調工事は今本当に重要で、20年ぐらい経って、その時想定していた気候状況と今では全く変わってきていますので、それに対応するという意味で、不具合だけでなく将来的に見越して、そういった余裕ある空調設備になるといいなと思っています。作品を引っ越さなければいけない、これは大変なことです。休館をしてから工事が始まるまでの余裕をどこまで持てるのかというのが非常に重要で、事業をしながら準備をするのがほとんど不可能だと思いますので、そのあたりのスケジューリングの仕方ですとか、事業との兼ね合いの洗い出しを慎重になさるといいなと思います。そこで慌てると作品損傷を起こしたりですとか、非常に怖い作業だと思います。ただ、一度全て作品を見なければいけませんので、余裕があれば、その引っ越しの作業と収蔵品目録の制作の作業をリンクさせ、非常に正確な目録を作れるということもあります。ですので、余裕を持ったスケジュールを立てていただくといいなというのが1点です。
2点目が、空調は休館して工事をしますので、併せてついでに何かできることがないか、例えばインターネット環境や展示室内を整えるですとか。中継

など動画を伴う事業を行うためには、かなりしっかりした Wi-Fi の設備が必要です。そういった点も含めて将来どういう事業をするか、どんな設備が必要か、良い機会だと思うので、そこの見直しもできるといいなと思いました。さらに、先ほどの障害のある方のためのサイン類や誘導のサインの見直しなど、総合的にこの工事休館の機会を有効に活用していただけるといいです。その代わりすごく大変で、東京都現代美術館も休館をして作品を全部引っ越し、館内の備品類の運び出しもして今までの溜まったいらぬものを捨てる良い機会になるのですが、あとで捨ててしまつて困ることが起きやすいので、美術館史も視野に入れて意識を持っておかれるとよろしいと思います。

副館長 確かにおっしゃる通りですね。予算の関係もございましてその辺も踏まえつつ考えていきたいと思ひます。

加藤副会長 そうですね。総合的にこの期間にできることを洗い出されると将来的な事業の幅が広がると思ひます。ちょうど今、横浜美術館が引っ越しをして、その間のいろいろな事業ですとかされているので、全く事業も何もしていないということにならないようにもしなければいけないのだらうと思ひますので、そのあたりも工夫してできることもいろいろあるのかなと思ひます。

大越会長 とても具体的なアドバイスをいただきました。将来の事業を考えつつ、チャンスを生かすという、本当におっしゃる通りだと思ひました。空調は変わったけれど他は何も変わってないというのは、改修工事休館に良くあることですので、どんな些細なことでも、改修によってサービスが向上したと少しでもアピールできることが欠かせない要素かなと思ひました。

他にはいかがでしょうか。

西村委員 毎回報告の中で入場者数が出てきますが、当然ここは公立の美術館なので、議会等で報告するのでしょうか。

副館長 入場者数自体は年報等で掲載するとともに教育委員会内でも公表しております。

西村委員 公立の場合は、展覧会に対する評価みたいなものは、主に入場者数で捉えられることが多いのでしょうか。

副館長 入場者数と、アンケートの内容等になります。

西村委員 ただ、展覧会の内容によってはそういうものでは測れないものがあるのではないかと思うのですけども、そういう理解というものはあるのでしょうか。

副館長 理解していただいている部分もちろんあるとは思いますが、そうでない部分もあるかとは思いますが。目に見えないとなかなか理解しづらいということもありますが、こういった委員の方のご意見をいただくこともひとつ目に見える形として会議録として残り公開もしており、館が自己評価をしましてそれに対してご意見をいただくこと、それが評価につながっているとも考えております。

西村委員 議員の方も美術の専門ではないし、ただ展覧会によって入場者数であったり、アンケートもそうなのですけども、そういうものだけで測れないものもあるのではないかという気がするので、その辺の幅広い理解ですとかそういう部分も見えていかないと、常に入場者数を目標にしてやっていたのでは本来の文化的美術的な本質から離れていくのではないかなと思います。

副館長 美術館としての意義を考えて行う場合、必ずしも入場者数に繋がらないものもあります。市としましてもその辺をバランスよく、入場者数が入るものと意義のあるものとのやっけていくと考えております。

斎藤委員 そういった意味でこの美術館の強みというのは、本をめぐるアート、それがしっかりあるので、ミュシャとかビッグネームの時は集客できると思うのですが、世界で美しい絵本っていう時は会場も小さいし、入っている人もパラパラですけども、この美しい本が、世界に何冊しかない本がこの美術館にあるのだということを知るというマニアックな楽しみもあるわけです。そういった意味で入場者数を取れるものと取れないものと、あるいは子どもたちも喜ぶブラチスラバ（世界絵本原画展）であったりとバランスがすごく良いなと思います。

大越会長 良いアドバイスありがとうございました。他に御意見なければこれでよろしいでしょうか。これで本日の会議を終了させていただきます。